

医療・健康

緑成会病院の再開と今後への期待などについて

西 克彦議員(共産) ①再開以降の様子は。

②今後の計画や取り組みは。市長 ①再開当初は多少混乱していたが、現在は順調に推移しているとのことである。

②現在、内科・小児科を毎日、整形外科・皮膚科・泌尿器科を週2回開設しており、今後診療科目の拡充に向け医師の増員について努力したいとのことである。救急体制は医療スタッフの体制が整った段階で検討し、市が実施する健康診査や予防接種については医師会を通じて、平成21年10月中旬から業務を開始している。

公立昭和病院の現状について

滝口幸一議員(フオ) ①公立病院改革プランの内容で特徴的なものは何か。

▲公立昭和病院



②医師不足は解消されたか。③電話回線の整備は十分か。市長 ①地域医療機関との連携推進を重点課題に掲げていることが特徴である。

②麻酔科、外科・消化器外科が各2人、産婦人科が4人の増となったが、麻酔科、産婦人科、脳神経外科は補充する必要があると聞いている。

③回線は特に不足していないが、今後、電話の集中する時間帯の対応や自動音声案内の導入等を検討することである。

東京都後期高齢者医療広域連合による次期保険料案等について

西 克彦議員(共産) ①次期保険料案の概要は。

②被保険者の保険料負担は。③保険料負担軽減の考えは。市長 ①国の概算要求に沿った案で保険料均等割額が4万9900円、所得割率が8.17%である。

②本年度と比較すると保険料均等割額が3千円の増、所得割率が1.61ポイントの増となっている。

③国や東京都後期高齢者医療広域連合で検討されており、その動向を注視したい。

ヒブ、肺炎球菌、新型インフルエンザ等ワクチン接種の現状

蛇川 浩議員(公明) ①ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの公費助成による予防接種の実施状況は。

②小児用肺炎球菌ワクチンも公費助成と定期接種化をすべきと考えるがどうか。

③新型インフルエンザワクチンの公費負担の対象拡大は。市長 ①12月2日現在、ヒブワクチンは延べ700人、肺炎球菌ワクチンは613人である。

②ワクチン発売後の国等の評価、定期接種化の動向等を注視していきたい。

③生活保護世帯及び市民税非課税世帯の市民を助成対象としており、対象の拡大は難しい。

介護・医療の改善で高齢者の暮らしを守れ

木村まゆみ議員(共産) ①入退院時にも介護保険制度で乗降介助をつけるべきでは。

②人工呼吸器や経管栄養などの医療が必要な重度要介護者を受け入れる施設が不足しているが、療養病床の見通しは。市長 ①入退院時については基本的に家族が行うべきものとされているが、ほかに手段がなく適切と判断される場合は利用が可能となっている。

②都は医療の必要度が高い高齢者等の療養場として必要数を確保していくとしており、市内についても現状の病床数は確保されるものと考えられる。

福祉

高齢者が安心して暮らせる支援を充実させよう

山岸真知子議員(公明) ①同居家族がいることで家事援助サービスを利用できない昼間独居高齢者に対する認識は。

②地域包括支援センターでの高齢者見守り事業の実績は。市長 ①同居家族等がある場合

の取り扱いは、ケアマネジャー等に周知しており、利用者の状況に応じて必要なサービスが提供されていると認識している。

②対象者は平成21年9月末現在11人であり、年4回程度、訪問・電話等により実態把握を行っている。

高齢者の暮らしと地域包括支援センターのこれからについて

日向美砂子議員(生ネ) ①相談窓口の時間延長や相談のスキルアップへの支援が必要では。

②高齢者の見守りネットワークをつくるための協力関係は。市長 ①受付時間延長については考えていない。スキルアップの支援はケアプラン指導研修を実施しており、都や保健所等の研修への参加も促している。

②月1回、連絡会で意見交換等を行っている。

③通報等があった場合、市と情報交換後両方で現場確認等を行っている。また、長期の虐待の場合等は警察等も含めたケース会議を行い対応している。

小平市シルバー人材センターの役割について

滝口幸一議員(フオ) ①高齢化が進む中で役割について見解は。

②行財政再構築プランにある経営改善は進んでいるか。市長 ①高齢者の多様な就業要望にこたえて幅広い就業機会等の提供を担っており、コミュニティを補完する社会資源としても大きいと認識している。

②計画どおりの進捗状況にある。今後も公益法人制度改革による法人移行を踏まえ、自立性を高めるべく経営改善等に向けた指導・協議を引き続き行っていききたい。

しょうがい者の移動手段としての三輪自転車の購入費助成を

常松大介議員(フオ) ①下肢麻痺の障害のある人が障害者用三輪自転車を運転することについて、認識は。

②購入費を助成する場合の問題点は。市長 ①リハビリが使用目的であり、医療的ケアにおける安全面の確保が必要と認識している。

②安全面の判断が市では難しい。補装具の支給対象者が都が必要と認められた人は同程度の3輪型電動車が原則1割の費用負担で購入可能である。

防災安全

消費者被害から市民を守ろう

岩本博子議員(生ネ) ①市の消費生活相談室に寄せられた相談内容の特徴は。

②高齢者が被害に巻き込まれないための対策は。③小・中学校での消費者教育の取り組み状況は。市長 ①不当・架空請求に関する相談が最も多い。

②高齢者向けの出前講座の実施や高齢者のしおりに消費生活相談室の案内を掲載している。教育長 ③小学校では社会科や

自動車の交通事故、違反をなくすために

斎藤貴亮議員(フオ) ①標識が見えにくい等の苦情、意見があった場合の対応は。

②事故や違反が多いと報告を受けている場所への対応は。市長 ①市が管理する標識は現地を確認して改善し、交通管理者の標識は小平警察署に改善を申し込んでいる。

②交通管理者から情報提供はないが、事故が交通安全施設の不足等に起因する場合には再発防止に向けた協議や現地確認を行い、対策を講じている。

交通安全対策の充実について

宮崎昭夫議員(政和) ①長年の懸案である、都道の東京街道、五日市街道への歩道設置についての働きかけは。

②都道へのカーブミラーの設置基準等はどうなっているか。市長 ①東京都市長会等を通じて、都の予算編成時期に整備促進について要望している。

②市道から都道へ進入する際の見通しが困難で都道敷内に設置せざるを得ない場合は、都との協議により都道敷内への設置が可能となった。

自治会主催の防災訓練について

川里春治議員(政和) ①自治会の防災訓練をどう考えるか。②住宅用火災警報器の設置率の現状は。

③AEDの使用方法の変化に関する啓発は。市長 ①災害時は地域住民が連帯し、地域単位で防災体制を確立することが必要であり、訓練の積み重ねは非常に重要なことから積極的に支援をしている。

②小平消防署で把握している設置戸数は平成21年10月末現在で1万8千9百世帯、設置率は約41%と聞いている。

③変更があれば講習会や市報ホームページ等で周知したい。

道路

都市計画道路3・3・8号線について

木村まゆみ議員(共産) 小平の未着手部分については府中街道現道の整備等によりルート変更することを提案しているが、市は困難との立場である。なぜ解決不可能な課題なのか明らかにしてほしい。

市長 都市計画マスタープランで現在のルートを前提としたまちづくりの整備方針等を定めている。また平成18年4月に都と28市町で策定した、多摩地域における都市計画道路の整備方針第3次事業化計画の中でも現在のルートで整備を行う方針が定められていることから、一定の整理がなされていると考える。

道路整備と土地区画整理事業は周辺環境と調和するの

立花隆一議員(公明) ①都市計画道路3・4・23号線は自然環境に配慮した開発計画が必要と考えるが見解は。②小川町一丁目土地区画整理

事業の現状と今後は。市長 ①希少鳥類の生態に関しては本年度から調査をしており、調査結果を建設計画に反映したい。また、植生調査はすでに実施しているが、道路予定地内での希少植物の生育については確認していない。

②現在は4年目に入り、順調に進行中と聞いている。今後、造成工事が完成すると平成23年度に換地処分のための測量を行い、平成24年度に完成させる予定である。

掲載分以外の質問項目



【環境・下水道】
・家庭ゴミの減量と戸別収集、有料化等について

【教育・文化】
・本館に仲町図書館はIT図書館にできるのか
・教育行政のおかしさを正せ

【道路】
・商大橋北詰丁字路交差点の横断歩道の安全対策について